
重奏世界蹂躪混乱記

tasogaremono

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

重奏世界蹂躪混乱記

【Nコード】

N2307Z

【作者名】

tasogaremono

【あらすじ】

時は、聖譜暦1648年、三河消失とともに行なわれる君主ホライゾン・アリアダストの処刑の中、とある世界の少年は悲運にも神の悪戯でこの世を去ることになった。そこで手に入れた力は指針を狂わす悪魔の兵器、そして少年は今同じ境地に立たされているものを救いに始める、そしてそれは全面戦争を意味していた。ゆえに少年は世界を相手に動き出す

＊この物語は某頭の自嘲気味でお構いなくいろいろなものをぶち込んでカオスにする作者によって作られた境界線上のホライゾンの物

語です。どうぞお構いなく白い目でお読みください。ちなみに人によって様々ですが神様チート物語です。

境界線上の奏者達

とある世界の学者はこう唱えた、

『この世界は沢山ある、故に楽しみ方、生き方、考え方、様々だ、だから決して忘れて欲しくない、この世界にはまだ自分も知らない可能性があるということだ、それは時に最悪をもたらし、時に最善をもたらす』と

そして、この時、少年は平凡な日々を送っていた――

少女は無慈悲な研究者につかまり、モルモットとされ冷たい釜の中で実験として生きることとなった。そして、復讐を決める――

そして、とある青年は古き幼馴染を助けるために立ち上がり――

とある少女はその思惑で高笑いをする――

またあるところでは騎士が鎖をもって立ち上がり――

幼き政治家はみんなを引っ張ろうと指導していく――

またあるところでは高笑いをしながら世界を手中に収めようとする老いた人もいる――

そして、消滅した土地の中には指針にない建物が隠され、静かにその時の歯車を動かそうとしていた――

様々な物語が交わる中、ひとりの少年は死を迎えた――

それと同時に人々は指針の狂わされた未来へと歩き始める――

境界線上の奏者達（後書き）

さあ、始まりました、境界線上のホライゾンの二次創作、今回は私にとって3作目になります。どうか温かい目で見守っていただけると幸いです

始まりの二人

聖譜歴 XXXX年10月9日

「で、ここは、おなじみの天国です」

周りは雲、辺り一帯雲

目の前にいるのは黒髪美少女天使？、はい、マジ最高です、うんマジで、まあ、これが現実世界（生きていた時の世界）だったら錯覚を起こしかねないがな

それにしても、ジャンプを買いにコンビニに向かっていたら十字路で突然やってきた4メートルトラックにもすごい勢いではねられてそのまま吹っ飛ばされ落っこちたのが鉄筋コンクリート打ち込んでいてまだあのでっかい釘があったところに真っ逆さまにダイブ、そしてら全身ぐさりといってね、それで一発で逝った

なんてギャグじゃないんだからやめてほしい、うん、これはマジだった

「それにしても？あの死に方うけるわ？飛ばされたのが500メートルとか、どこぞのスマブラのホームコンじゃないんだからww」

「あの、いくらなんでも人の死を笑うのやめてもらえます？」

笑うと可愛いのだが、さすがに理由が理由で少し笑えなかった

「いやあ？ごめんごめん」

まあ、別にいいんだけど、現在の状況を除けば、何故かって？そんなのかんたんだ、今状況的にとてもまずいからである

「それにしても、いい体してるわよねゝ舐めたいわねゝ」
とりあえず逃げようと思うが逃げられない、なぜなら

十字架に磔にされパンツ履いてYシャツ一枚なのである、ちなみに俺は男である、もう一度いう男なのである

クンクン、天使がやけに近寄ってくる、けどかなり恥ずかしい

「いい匂い」

そういうとYシャツのボタンを一つつつ丁寧に外していくと

「フウ……」

妙に息が熱っぽかった

「まあ、とりあえずここで襲うのもあれだし、状況を教えるわね」
そういうと、なにやら一枚の紙を出して見せる

「まあ、言われなくてもわかると思うけどあなたは死にました、だから閻魔様の判決がうんたらかんたら」

「（うんたらかんたらうってなんだよ）」

「って言うところなんだけどね、今回はそうも行かないのよね？」

「???」

「まあ、状況がよくわかってないようね、自分の死因でなんか違和感ない？」

「……500メートルぶっ飛ばされたこと？」

「そう、その通り、今回はね、ちよいと遊び心でね……うん、悪気はないと思ってる、反省もしてないし、後悔もしてないもん、だって神様だし」

「（後悔と反省くらいはしてくださいよ（・|・;）しかもこの人神様だったよー！！）」

「で、流石にね、それだと最高神がね、ダメだっていうからしょうがないから他の世界に送ることにしたの」

「へえ？」

「で、行き先なんだけどね、ここに逝ってもらいま？す！」

「（字が違う！字が！）」

そういうと鈍器のような物を持ちだした

「境界線上のホライゾン？」

「読んだことあるでしょ？」

「ええ、はい、もちろん」

「なら、話が早い、というわけで、テンプレねテンプレ、転生よ転生」

「転生っすか！？」

「そゆこと」

「で、流石にね？そのまま行かせて死にました？なんてめんどくさいから、お姉さんと特訓だよ！」

「特訓っすか（；´∀´）」

「お姉さんと四六時中一緒なんだよ」

「キタ——（。▽。）——ッ！！」

俺のテンションはガンガン上がる

それから無名の者の特訓は始まった

それは想像を絶するものだった

「んじゃあゝまず最初はこれかなゝ！」

そういうと天使が人差し指を天に向けると、たちまちどす黒い雲と共に雷雲が現れ

ズババババツバアアアン！毎秒400発の雷が当たりに降り注ぐ

「とりあえず慣れてみよゝ！ちなみにここ死んだあとの世界だから死なないよ」

「（死んでも慣れるもんじゃねえ！）」

そう言いながらも

ピシャッ！バリバリバリ！

脳天に雷が直撃する

「ウワアアアア！」

ものすごい激痛が悲鳴と共に体を駆ける、とりあえず体が張り裂けるほど痛い

しかし、何かの鎖が外れたみたいに体が軽い

ちなみに、神様の力によって、超回復が施されており、瞬間的に肉体が再生するというまさかの事実、だから

「それ！それ！」

笑顔で雷を当ててくる神様、その行動に躊躇いはないとことん滅茶苦茶だった

一番ものすごかったのは

「うん／＼じゃ次コレね／＼」

ちなみに雷の初期訓練が終わり、頃合を見計らってきた頃天使がそう言った

そして、俺の目の前にあるのは幅70cm位の薄い板

「というわけで、飛び降りてもらいます」

「エッ！（；。D。）」

「異論は認めないんだよ／＼」

眼下には空、地上までの高さはまあ、6000m位だろう

「んでは、逝ってみよう」

そういうと

トンッ！

物凄い力学を無視した肩叩きにより

「うっそおおおお！」

ヒュルルルルルルル！

6000メートルからの紐なしバンジーとはまさにこのこと

めちゃくちゃなスピードで迫る地面、さすがに死なないと言っても

「これは嫌だアアア！」

俺は少しでも衝撃を吸収しようとして体制を変える、それと共に近くに水面がないか空から見るが

「ねええ！」

ズシヤアアア！ドゴオン！大量の砂煙とともに地面が抉れた

そのほかにも、基礎体力訓練（筋トレ各1000回×10セット／日）の他に溶岩の近くで30分耐えるとか、水中でずっと息を止めるとか、もはや無茶苦茶、そのほかにも、周囲1kmの敵の気配を察知する訓練とか、そのほかにも無茶苦茶な量を放ってくる弾丸を一発も当たらずかわす訓練とか行なった

まあ、朝昼夕と地獄の訓練をし、

夜はなぜか

「ういゝスバルゝ私の酒が飲めないのかあゝ？」

絶賛デロンデロンの神様、そして、勝手に名付けられた俺

「（これアルコール度数高いじゃん）えっ、いや、あの」

「飲めないのかゝ」

そういうと無理やり酒を飲ませてくる神様

「今日だってさあ、あの雷神ゼウスのエロジジイ、セクハラだよセクハラ」
愚痴をこぼす神様

「それに比べてさあ」

そういうと俺の顔が神様の手によって吐息が当たるほど顔の近くにもっていかれ

「見た目可愛いし、言うこと聞いてくれるし、セクハラしないし、いいところくしょねゝ」

そういうと俺の方に倒れ込んでくる

「（おいおい、天下の神様）」

毎度おなじみのことだが酒飲み神様の相手をさせられた（色々ハプニングがあった、ほんとに危ない意味で）

それからなんやかんやあって数十年後

「はい、これ」

「これはなんっすか？」

どこからからか持ちだしてきたのは一本の長太刀
シブウ イズモ ニ キリムネミツ
「疾風出雲国斬宗光、もちろん武装です」

「ということは、もう時期ですか？」

「そゆことなのです」

「はやいものですね」

「ねえ？」

数十年の特訓でもものすごく色々なものが強化された
肉体強化はもちろん、視力聴力共に超人レベルまで強化され、第6
感ならぬものもついた

「たぶん、君なら使いこなせるんだよ！」

「まあ、直感で合いそうな気がしますからね」

そういうと、なにやらボタンを持ち出し

「んじゃあ、いってらっしゃい」

「はい、いきますわ」

ポチッ！

・
・
・

「テンプレなんだよテンプレ！」

「先に言ってくれえええ！」

真っ逆さまにダイブし始めた

そして、これから始まる物語で重要な人物がもう一人、目覚めるのであった

「被験体、F H・01s 紅蓮、体内同化率の75%が同化完了」

「同じく、高次元神格武装、煉魔刀一式とのシンクロ率、安定領域に突入」

そこにいるのは白髪的女性しかし、頬や体のあちらこちらに赤い痣や紋章が書かれている

「こうも同調率が高い実験体とはな、なかなか面白い」

「まあ、完成までは少し掛かるがこれでも十分だろう」

研究者は言葉を並べながら、手元にあるディスプレイを見る

コポコポッ！研究者気付かなかった、この時何かが動いたことを

ピキッ！40層もあるガラスケースにヒビが入る

「（私は・・・私は・・・ここから・・・）」

ガシャアアアン！ガラスのケースが音を立てて割る

そしてその研究所は火の海に包まれた

「（私は・・・探す、これから、意味を）」

火の海の真ん中にある人影、怪しく光る赤い瞳と痣、そして、炎の中に揺らめく銀色の髪と黒い服

飛ぶ紙が一枚、そこに書かれているのは松平元信の名前だった
”人工生物進化計画” そう書かれていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2307z/>

重奏世界蹂躪混乱記

2011年12月9日12時46分発行